

# バードウォッチング

## 《<sup>うみ</sup>海<sup>べ</sup>辺<sup>とり</sup>の<sup>へん</sup>鳥編》



ながさきしかがくかん  
長崎市科学館

2024.2.25(日)

かわはらおおいけ  
川原大池

# ミサゴ(ミサゴ科)<sup>か</sup>



Copy Right 大坪 潔(長崎市科学館)

英語ではOspreyと呼びます。海や川などで魚を捕まえて食べます。空中で獲物を見つけると、ホバリングした後、勢いよく水に飛び込み、鋭い爪でガッチリとらえます。飛び込んだ後は、空中で体をブルブルとふるわせ、水気を弾き飛ばすようすがよく見られます。遠くから見ると、トビに似ていますが、つばさが少し細長いこと、つばさの内側とおなか、顔が白いことなどで区別ができます。

# ウミネコ(カモメ科)<sup>か</sup>



さいきん にほんじゅう かず ふ かわわらおおいけ よ み  
最近、日本中で数が増えており、川原大池でも、良く見  
られます。わり ちか およ こと おお かんたん み つ  
られます。割と近くを泳いでいる事が多く、簡単に見付け  
られます。ひと ちか み  
人が近づくと、こちらをチラチラ見ながらスイス  
に ようす  
イ逃げる様子は、ユーモラスです。

# オオセグロカモメ (カモメ科)<sup>か</sup>



Copy Right 大坪 潔(長崎市科学館)

かわはらこうえん ちか かいがん いっしょ む  
川原公園の近くの海岸では、ウミネコと一緒に群れを  
つく  
作ってくらしています。また、池の方にもやってきて、真水  
みず あ  
で水浴びをしています。

ウミネコのあしが黄色きいろなのに対して、こちらのあしはピ  
ンク色いろをしています。また、尾羽おばねは先さきっぽまで真まっ白しろで  
す。細こまかく見みるとくちばしいろの色もちがうのですが、望遠鏡ぼうえんきょう  
で大きおおくしないと見みえませんね。

カモメの仲間なかまは、他ほかの海鳥うみどりとちがって、水みずにもぐれませ  
ん。そこで、ほかの鳥とりが捕とった獲物えものを奪うばって食たべることも  
よくあります。

# か イソヒヨドリ (ヒタキ科)



なまえ につ じゅうたくち  
名前に「イソ(磯)」と付いていますが、住宅地にもいま  
す。また「ヒヨドリ」と付いていますが、ヒヨドリの仲間では  
ありません。オスは青紫色で派手ですが、メスは全体に  
ちやいろ じみ いろあ いえ ちか ゆた せりょう  
茶色で地味な色合いです。家の近くで、豊かな声量のき  
れいなさえずりが聞こえたら、この鳥かもしれません。あま  
ひと こわ いえ のきさき す つく  
り人を怖がらないので、家の軒先に巣を作ることあります  
す。

にほん ていち とり かいがい メートル こ  
日本では低地の鳥ですが、海外では 2000 m を超  
たか やま  
える高い山でくらしているそうです。

# か カワウ(ウ科)



Copy Right 大坪 潔(長崎市科学館)

カワウという名前ですが、川や湖の近くの海やダムなどでも見られます。有名な長良川の鵜飼いに使われるのはよく似たウミウです。目の下の黄色い部分が、ウミウでは小さな三角形で、カワウではもっと広くなります。もぐるのが得意で、泳いでいる魚も上手に捕まえます。その分、他の水鳥と比べて、羽根に油分が少なくぬれやすいので、水から上がってつばさを広げてかわかしている姿がよく見られます。